

BIAOZHUN RIYU HUIHUA
JIAOCHENG ZHONGJI



标准日语会话教程·中级

主编 许罗莎 [日] 岸田修次 插图 赵健平

■ 本书为大学日语专业本科二年级会话教材，
也适用于非日语专业学习者及日语爱好者

北科院



北京大学出版社
PEKING UNIVERSITY PRESS

标准日语会话教程

中 级

主编 许罗莎 〔日〕岸田修次

编委 〔日〕安藤美保 余六一 刘先飞

插图 赵健平



北京大学出版社
PEKING UNIVERSITY PRESS

图书在版编目(CIP)数据

标准日语会话教程. 中级 / 许罗莎, (日) 岸田修次主编. —北京: 北京大学出版社, 2005.8

ISBN 7-301-07939-7

I. 标… II. ①许… ②岸… III. 日语-口语-高等学校-教材 IV. H369.9

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2005)第 097122 号

书 名: 标准日语会话教程(中级)

著作责任者: 许罗莎 (日) 岸田修次 主编

责任编辑: 杜若明

标准书号: ISBN 7-301-07939-7/H·1200

出版发行: 北京大学出版社

地 址: 北京市海淀区成府路 205 号 100871

网 址: <http://cbs.pku.edu.cn>

电 话: 邮购部 62752015 发行部 62750672 编辑部 62753334

电子邮箱: zpup@pup.pku.edu.cn

排 版 者: 华伦图文制作中心

印 刷 者: 北京宏伟双华印刷有限公司

发 行 者: 北京大学出版社

经 销 者: 新华书店

787 毫米×1092 毫米 16 开本 11.25 印张 233 千字

2005 年 8 月第 1 版 2005 年 8 月第 1 次印刷

定 价: 21.00 元

まえがき

『標準日本語会話教程 中級』は、広東外語外貿大学東方語言文化学院日本語学部において、初・中級レベルに携わっている（或いは携わったことがある）教師によって編纂されたシリーズ教材の 1 つで、中国の大学において日本語学習歴 1 年程度の学習者を対象に作られた会話練習用の教材です。使用期間は週 4 時間、一学年 144 時間程度を想定しています。

現在中国で市販されている会話教材は、教科書にあるスクリプトを暗記したり、その一部を他の内容に置き換えたりする練習方法を取り入れたものが多いように思われます。しかしそれでは、学習者自信が積極的に談話を構成していく能力が育たないように思います。

学習者の談話構成能力を高める練習法の一つとしてロールプレイ（ロールカードに書かれた役と場面設定をもとに会話をするというもの）が挙げられますが、確かに中国で市販されている会話教材にもロールプレイを取り入れたものもあります。

しかし、現在中国で市販されているロールプレイ教材はその状況設定のほとんどが日本側の状況であり、中国の実情が反映されていないように思います。例えば、「お世話になっている保証人に挨拶に行く」といった場面設定は日本にいる学習者向けに考えられたもので、中国ではあり得ないものです。

また、中には、「受験を控えた先輩に対して後輩が励ます」といった場面設定のものもありますが、こういった場面は日中間わず、万国共通の場面かもしれません。しかし、この場面設定では、先輩、後輩のどちらかが日本語を母語としている人間であり、なおかつ二人の間で日本語を媒介語として使っているという前提がなければ、日本語を使わずに中国語で済ませてしまうでしょう。ですから、このような場面も中国の実情を反映したものとは言えません。

このような場面設定では、現実味がなく、学習した内容を実際の場面で活かせる可能性も少なくなり、学習者のモチベーションの低下にもつながる恐れがあります。

そこで、本教材では、「接触場面」（＝その言語がその学習者によってどのよう

に使われているか)、つまり「中国の大学生（主に2年生）が中国にいて日本語を使ってコミュニケーションする場面」をできる限り想定してロールカードを作成しています。（一部、将来的な状況を予測して作成したものもあります。）そのロールカードの多くは、もともと広東外語外貿大学日本語学科2年生の会話の授業で約1年半使用してきたもので、常日頃から学生との交流を持ち、どのような接触場面があるのか観察してきた結果作成してきたものでもあります。

執筆者は、岸田修次・余六一〈セクション 1, 3〉、岸田修次・許羅莎〈セクション 5, 8〉、岸田修次・安藤美保〈セクション 6〉、岸田修次・劉先飛〈セクション 7〉、安藤美保〈セクション 2, 11〉、岸田修次〈セクション 4〉、余六一〈セクション 9〉、劉先飛〈セクション 10〉、許羅莎〈セクション 12〉で、挿絵は、広東外語外貿大学東方語言文化学院日本語学部卒業生 趙健平にお願いしました。各セクションの構造および内容審査は、岸田修次、許羅莎、安藤美保が担当しました。

「接触場面」に対する理解もまだまだ不十分であり、試行錯誤の段階といえますが、「中国の実情を踏まえた会話教材」という点では一歩近づいたと思っています。

最後になりましたが、コラム作成のためのアンケートに協力してくださった廣州日本商工会の皆様、広東外語外貿大学東方語言文化学院日本語学科 1999 級、2000 級の学生の皆さん、同大学日本人留学生の方々、この場を借りて感謝の意を述べさせていただきます。

筆者

2005 年 5 月

本書の利用について

1. この教材の構成

この教材は12のセクションから構成されています。各セクションの一つ目のロールプレイに関しては会話例とポイントを示しています。これはそのセクションで基本となる表現を提示するためのものです。

ロールプレイ以外に、練習問題やコラムを設けているところがあります。練習問題は、練習したロールプレイの全体を書く形で復習するものと、そのロールプレイに出てくる表現の中で特に重要と思われるものを使って練習するものに分かれています。

後半3セクションに関しては、語彙的な要素と大きく関係してくるので、セクションの初めに表現・語彙を提示しました。また、ロールプレイの練習方法を採用するのが難しく、主にゲームを取り入れています。

2. この教材の特徴

この教材は、後半の一部を除き、すべてロールプレイの練習方法を取り入れています。

1) 「タスク先行型」のロールプレイ

ロールプレイの進め方としては、2種類があります。1つは必要な表現を導入・練習した後にロールプレイをする「表現先行型」、もう1つが先にロールプレイをしてから表現の導入・練習をする「タスク先行型」です。図示したものが以下の(a)と(b)です。

(a) 表現先行型：表現・文型の導入・練習 → ロールプレイ（表現の定着）

(b) タスク先行型：ロールプレイ（力試し） → 表現・文型の導入・練習

この教材では「タスク先行型」を採用しています。

現在行われている会話教育の方法は、そのほとんどが「表現先行型」ですが、この方法では「手堅さはあるが、インパクトに欠ける」という欠点があります。初級学習者なら「表現先行型」の方がいいかもしれませんが、初級の後半くらいのレベルからの学習者の場合は、基本的な会話能力がある程度備わっているので、「まずやってみて力試しをする」ということが非常に重要なのではないかと考えます。

「タスク先行型」の場合、その時点で持っている能力を総動員してタスク（＝ロールプレイ）に当たるわけですから、「自己の能力を再認識でき」、またそこから自分が分からないところを学習しようとする「モチベーションの向上」にもつながると思われます。

2) 「接触場面」に根ざしたロールプレイ

この教材では、中国の大学生（主に2年生）が学生生活を送る上で日本語を使ってコミュニケーションが必要となるであろう場面を想定し、なるべくそれを基にロールカードを作りました。

しかし、「中国の大学生」と言っても、学生がいる地域によって接触場面も変われば、場所の名称や交通手段などの地域情報も異なってくるので、すべての地域において共通する接触場面を想定するのは非常に困難を有すると思われます。そこで、この教材では広州の大学生が遭遇するであろう場面を設定しました。ですから、広州以外でこの本を使用される場合は、一部のロールカードの内容を、その地域に合った内容に修正してください。

3) 「易」→「難」に配列されたロールプレイ

この教材は、「依頼」、「助言」といったように、主に言語機能によってセクションが分けられていますが、その中に含まれるロールプレイは、なるべくセクションが進むにしたがって少しずつ難しくなるように配列してあります。

3. ロールプレイの進め方及びポイント

ロールプレイの進め方は大体以下のような順序になると思います。

① ロールプレイの前に

ロールプレイの多くにはウォーミングアップとしていくつかの質問を設けています。これは、そのロールプレイに対する関心を高めるため、そして予備知識を活性化するためのものです。

② ペア練習

ロールカードの内容を理解させ、ペア練習を行います。ペアはなるべく日本語能力が同じ者同士で組ませるとうまくいくと思います。先行型ロールプレイの特徴は、学習者がその時点で持っている能力を総動員して会話をし、それを通して自分ができるところ、できないところを認識させることです。ですから、ペア練習の間、質問があった場合は答えてあげてもいいですが、基本的に教師は見ているだけです。学習者が間違った日本語を話してもその場では訂正する必要はありません。

③ 発表

ペア練習が終わったら、一組ずつ発表させます。クラスの規模が大きい場合は、何組かに発表させ、残りの組は宿題として書いてくるようにしたり、次の時間の復習として発表させたりするようにしてください。

発表前と発表後にはクラス全体で発表者に拍手するようにしてください。これには、発表者への励ましと、発表以外の学習者がちゃんと発表を聞くようにするための注意喚起の意味が含まれています。

発表の間、教師は発表の内容で良かった点と悪かった点（うまく言えなかったり、極端に正確さが落ちてしまう部分を指し、これを「言語的挫折」という）を、メモをとるなどして覚えておきます。

④ フィードバック

一組発表が終わったら、その発表における「言語的挫折」を指摘し、表現や文型などを導入します。表現・文型などの導入は、そのペアの発表が終わった直後に行います。発表には出てこなくても、こちらが導入したいものがあれば、この時に導入してもいいかと思えます。

また、「言語的挫折」を指摘して、表現・文型などを導入するだけでなく、学習者がいい表現を使った時など、良かった点があれば大いに誉めてあげてください。他の学習者にも勉強になりますし、本人を勇気づけることになります。「言語的挫折」の指摘ばかりだと、発表に抵抗を示す学習者も出てくるので注意してください。

「表現先行型」のロールプレイと違い、「タスク先行型」のロールプレイは教師にとっては、どのような「言語的挫折」が起こって、どのような表現・文型を導入すればいいかを、授業の前に知ることができず、前もって準備しておくことができないという、かなりスリリングなものになってしまいます。そこで、参考にしていただきたいのが、別売りの『標準日本語会話教程 中級 教師手冊』です。『標準日本語会話教程 中級 教師手冊』には、このロールプレイでは大体このような展開で、このような表現が出てくることが考えられるかをまとめています。それぞれのロールプレイにおける展開、表現・文型のすべてを網羅することは不可能ですが、『標準日本語会話教程 中級 教師手冊』を読んでいるだけで、どのような展開になり、どのような表現・文型が出てくるかがお分かりいただけると思いますので、ぜひ授業前に読んで、参考にしてください。

筆者

2005年5月

目 録

セクション1 「出会いと別れ」	1
ウォーミングアップ	2
①「どんな人たちかな」	3
— 趙?張? —	4
— 主な部首表 —	5
— 張か?張か? —	5
②「あっという間の2週間」	6
— 日本人は2度お礼を言う —	6
③「卒業してから」	6
④「10年前の私」	7
⑤「今、あの人は…」	8
⑥「4年生になると…」	8
— 沈黙は金? —	9
練習問題 (ロールカード①)	10
練習問題 (ロールカード②)	10
練習問題 (ロールカード⑤)	13

セクション2 「いいですよ!」	15
ウォーミングアップ	16
— 親しき仲にも礼儀あり —	17
①「我慢できない!」	17
②「早退」	18
③「母も一緒に」	18
● ④「メルアド」	19
⑤「まだ書けてないんです」	19
— ダメ!ダメ! —	20
⑥「チャリンコ」	20

⑦「図書館」	21
⑧「目指すは、流川 ^{ろかわがえで} 楓！」	22
⑨「ドキドキ、ホームステイ」	23
練習問題（ロールカード①）	24
練習問題（ロールカード④）	25
練習問題（ロールカード⑦）	26

セクション3 「行かない？」 28

ウォーミングアップ	29
①「十人十色」パートⅠ	30
②「花市 ^{はないち} 」	30
③「カラオケ」	31
④「評判のいいレストラン」	31
⑤「勇気を出して」	32
⑥「十人十色」パートⅡ	33
— 学生が払う？それとも教師が払う？ —	34
⑦「先生、困ります」	34
— ああ～そうですか —	35
練習問題（ロールカード①）	36
練習問題（ロールカード③）	36
練習問題（ロールカード④）	39

セクション4 「ねえ、お・ね・が・い」 41

ウォーミングアップ	42
①手塚 ^{てづか} 治虫 ^{おさむ}	43
②「ルース・ベネティクト著『菊と刀 ^{ちよ きく かたな} 』」	44
③「テスト前なのに…」	45
④「今やケータイの時代」	46
— メール私語 ^{しご} —	47
⑤「ニーハオ！」	47
⑥「喉 ^{のど} 占 ^{しほ} 慢 ^{まん} 」	48
⑦「電子辞書」	49

⑧「けっこうなお手前 ^{てまえ} でした」	50
⑨「ようこそ中国へ」	52
⑩「頼まれちゃった」	53
— 途中 ^{とちゅう} の状況も大切！ —	54
練習問題（ロールカード①）	55
練習問題（ロールカード③）	57
練習問題（ロールカード④）	58
練習問題（ロールカード⑤）	59

セクション5 「トウルルル…」 62

ウォーミングアップ	63
①「忘れっぽい人」Ⅰ	64
②「忘れっぽい人」Ⅱ	64
— 夜10時から朝9時まで —	65
③「ストライク！」	65
④「まだ読みたいなあ」	66
⑤「どうしよう、間に合わない！」	67
— お電話を替 ^か わりました —	68
⑥-1「肇 ^{ちやうけい} 慶」Ⅰ	68
⑥-2「肇 ^{ちやうけい} 慶」Ⅱ	69
— 度々 ^{たびたび} 申し訳ありません —	70
⑦-1「貧乏旅行」Ⅰ	70
⑦-2「貧乏旅行」Ⅱ	71
⑧「王五さんお願いします」	73
— ひゃくとおばん ひゃくじゅうきゅうばん いちぜろよんばん — 110番・119番・104番 —	73
練習問題（ロールカード①）	74
練習問題（ロールカード②）	75
練習問題（ロールカード③）	76
練習問題（ロールカード⑦）	77
練習問題（ロールカード⑧）	78

セクション6 「いないのか…」	80
ウォーミングアップ	81
ー ボイスメール ー	82
①「ジュージュー」	83
②「山登り！」	83
③「市内観光」	84
④「ああ～、間に合わない！」	84
⑤「財布がない！」	85
⑥「大丈夫ですか？」	86
⑦「研究室で」	87
⑧「Tel」	87
⑨「早く返してほしいなあ」	88
⑩「資料がない！」	88
ー 留守番電話 ー	89
練習問題（ロールカード①）	90
練習問題（ロールカード⑤）	93
ー メモの書き方 ー	95
 セクション7 「ったく、もう」	 96
ウォーミングアップ	97
ー 円満解決 ー	98
①「ゲームはいいけどね…」	98
②「ワールドカップ」	98
ー まず謝ろう ー	99
③「ギギ、ギギ～」	100
④「お待たせ～」	100
⑤「おまたせ～。あ、あれー」	101
⑥「じゃ、見てみます」	102
ー みてみます ー	102
⑦「忘れっぽい先生」	103
⑧「あなたは友達のところに…」	103
ー またがし ー	104

練習問題（ロールカード①）	105
練習問題（ロールカード③）	105
練習問題（ロールカード⑥）	106
セクション 8 「アルバイト篇」	107
ウォーミングアップ	108
①「 ^{はつ} 初通訳」	109
②「なんでそう～なるのっ！」	110
③「ああ、トランクが！！」	112
④「 ^{なこくせき} 多国籍料理店『 ^{あじこうぼう} 味工房』	113
⑤「飛びます、飛びます」	114
⑥「☆☆☆☆☆ あれ、1つ多すぎる」	115
⑦「電車でGO!GO!」	116
⑧「しまった。迷子になっちゃった」	117
セクション 9 「これにしたら？」	118
ウォーミングアップ	119
①「クリスマス」	120
②「中国のお茶?…」	120
— 日本人がもらって困るお土産 —	121
③-1「旅行に行きたいんだけど…」	122
③-2「私、 ^く 食いしん坊 ^{ぼう} なの～！」	122
— 日本人が中国で行ってみたいところ —	123
④「市内を案内する」	124
⑤「じゃ、すみませんとも言わないの？」	125
— 「ごめんなさい」は ^{えんかつあぶら} 円滑油 —	126
⑥「えっ?おごりじゃないの??」	126
— もしかしたら… —	127
練習問題（ロールカード①）	128
— 目上の人にそれは… —	130
練習問題（ロールカード③-1、2）	130

セクション10 「今まで見たことのないような形」 133

ウォーミングアップ	134
①「もしかして、このかばん？」	135
②「タクシーでの忘れ物」	135
③「任せてください」	136
④「迷っちゃうなあ」	137
⑤「これにしよう」	138
練習問題（ロールカード①）	139
練習問題（ロールカード④）	139
練習問題（ロールカード⑤）	140

セクション11 「どんな人かな？」 141

ウォーミングアップ	142
— 容姿を述べることば —	143
<ゲーム>①「誰のことかな？」（全員で）	145
<ゲーム>②「どの先生かな？」（グループで）	145
<ゲーム>③「犯人は誰だ！」（グループで）	145
<ゲーム>④「私は誰？」（全員で）	148
<ロールプレイ>①「私はこんな人です」	149
<ロールプレイ>②「アルバイト」	150
— 体調を述べることば —	151

セクション12 「どんな感じの人？」 152

ウォーミングアップ	153
— 性格を述べることば —	
— 性格描写にかかわる表現 —	155
<ゲーム>①「誰のことかな？」（全員で）	155
<ゲーム>②「私はこんな性格！」（グループで）	155
<ゲーム>③「どの先生かな？」（グループで）	155
<ゲーム>④「誰のことかな？」（グループで）	156
<ゲーム>⑤「私は誰？」（全員で練習する）	156
<ゲーム>⑥「えっ？それは誰？」（全員で）	157

＜実践＞	157
参考文献	159
あとがき	160
著者紹介	162

セクション1 「出会いと別れ」

ロールカードの名称	ロールカードの主な内容
① どんな人たちかな	初対面の人に挨拶する
② あっという間の2週間	別れの挨拶
③ 卒業してから	久しぶりに会った時の挨拶（先生と学生）
④ 10年前の私	久しぶりに会った時の挨拶（友達どうし）
⑤ 今、あの人は…	友達と久しぶりに会って他人の近況を聞く
⑥ 4年生になると…	指導してもらった先生に挨拶に行って、指導日を相談して決める

ウォーミングアップ



1. この二人は今、何をしていると思いますか。
2. 想像してから、ちょっと話して下さい。
3. これは日本式のやり方ですか？もし、そうではなかったら、日本式のやり方はどうでしょうか。
4. 日本では、挨拶する時や人を出迎えに行く時は、どのように挨拶するか知っていますか。